

序

この度、『レジデントノート』誌に増刊号を創刊することとなった。レジデントノートでは、主に研修医を読者とし、プライマリ・ケアや救急を中心とするテーマを採り上げてきたが、読者からは、レジデントノートのわかりやすさでもっと広く深く学べるものもほしいという声も多かった。そこで今年刊行10周年を迎えたことを機に、月刊誌ではカバーし切れないところも含め、1つのテーマをよりしっかりと学べるよう、増刊号を創刊することとなった。今後、皆さんの診療に役立つものとなるよう、願っている。

今回、その第1弾として、輸液療法を採り上げた。輸液の重要性については今さら触れるまでもないであろう。しかし、施設によって考え方が大きく異なるなど、これまで十分な標準教育がされてきたとは言い難い点も多い。

そこで、本書レジデントノート増刊『輸液療法パーフェクト』は学生・研修医さらには3年目以降の上級医や指導医を対象に輸液療法を理解しやすくするために企画された。

本書の特徴は、症例から学ぶことを基本としている点である。われわれは病名のレッテルが貼られた患者さんを診るわけではない。症状をもった患者さんから体液・電解質異常を判断し、その原因を考え、輸液を行うのが日常診療の順序である。そこで本書では、このような実際の診療の順序に基づき、まず序章で典型的症例を呈示し、どのような知識が必要かを考える構成とした。症例の経過を追いながら、その都度必要となる知識に関連した章・項目を示しているのので、具体的に何を考えどうするかについては、各項目を参照し、また序章の症例に戻って、診療の流れを読み進めていくとよいかと思う。

第1章からは、輸液療法に必要な具体的な事項を解説している。輸液療法に必須となる基本的な考え方から、準備、一般的な注意点、病態ごとの実際まで、輸液療法に必要な事項を網羅したものとなっており、序章の症例に入らない病態についても、第5章の各種病態での輸液に症例をまじえて書いてある。

最後に第7章では、輸液に関して最近議論となっているトピックをとりあげ、解説していただいた。アドバンストな内容であるが、今後の診療に役立てていただきたい。

執筆者も日本さらには世界でも輸液療法の第一人者と考えられている先生方であり、最新の知識をわかりやすく解説していただいた。新しい考え方で作られた本書がレジデントの皆さんに役立ち、ひいては患者さんの治療に貢献することを祈っている。

2009年2月

日本医科大学付属病院腎臓内科
飯野靖彦